

Zone C 持続可能なコミュニティをコーディネートする (オンライン開催) ゆるやかにつながり、なんとなくはじまる

これまで Zone C では、「持続可能なコミュニティをコーディネートする」というテーマのもと、さまざまなコミュニティと、そのなかで生きる人びと、そしてそこへ関わろうとする人びとの姿に目を向けてきました。「足羽川ふれあいマラソン」を支えるボランティアのあたたかさ。いつもとは違う場所へ踏み出し、違う景色に出会おうとする思いと、そこに生まれる「ためらい」と「勇気」。そして、コミュニティを持続させるために、世代を超えて継承しながら、新たなかたちを模索する営み。

一方で、私たちは、もっとゆるやかで、輪郭の定まらない関係の生まれ方にも心あたりがあるのではないのでしょうか。一緒にいるうちに、いつの間にかことばを交わし、気づけばその場に居場所のようなものが生まれている。誰かが明確に「つくろう」としたわけではなくても、人が集まり、離れ、また別のつながりが立ち上がっていく——。

コミュニティとは、あらかじめ形をもって存在しているものというよりも、人と人とのあいだで、そのつど立ち上がっていく営みなのかもしれません。そして、そうした営みに目を向けていくことは、持続可能なコミュニティについて考えていくうえで、大切な手がかりになるように思われます。

今回の Zone C では、「越前市みんなの食堂」の取り組みに注目します。そこには、日本人も外国人も、高齢者も若者も、親子も友達も、多様な背景をもつ人びとが自然に集い、それぞれのあり方そのまま関わっています。「ここ」と「あそこ」を分ける境界はゆるやかで、食事をする人、少し立ち寄る人、手伝う人、ただその場に居合わせている人——関わり方があらかじめ決められていないからこそ、その余白のなかで異質が混ざり合い、その場その場で新たなつながりや営みが生まれています。

そのようなコミュニティは人びとのあいだでどのように始まり、育まれ、続いていくのでしょうか。「ゆるやかにつながり、なんとなくはじまる」コミュニティの萌芽について、みなさんと共に考えたいと思います。

Zone C には、地域・学校・企業・NPO・行政など、多様なコミュニティに関心をもつ人びとが集い、事例に耳を傾け、小グループで語り合います。居合わせた一人ひとりが、この場を共につくっていく存在となる——。そんなゆるやかなつながりのなかから、これからのコミュニティの可能性を、みなさんと協働で探っていければと思います。

●シンポジスト

「越前市みんなの食堂」

野尻富美さん、関孝夫さん、近藤恵美さん

●タイムテーブル

14:00～ オンライン接続開始

14:30～15:30 主旨説明・話題提供・対談

15:30～17:40 小グループ対話・全体対話